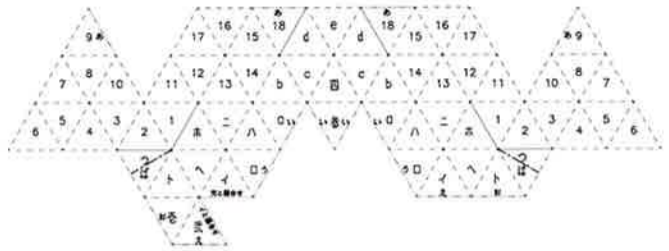




生きとし生ける全ての命を慈しむこと。
その等価な重みを、絆として紡いでみました。

資源の乏しい日本において、地震災害に向き合うことは、
であること、つまり予測の可否に関わらず確実に周期的に
起こりうる危険性は、現在ほぼ全土に存在することを、
そして放射能は、すべての「いきもの」の命の継承を
やむなく十萬億士の命を奪わねばならなかったことも、

エネルギーおよび環境問題と表裏一体
襲ってくる地震に対し、放射能災害が
私たちは認識しました。
阻害し、その継承を守るためには、
目の当たりにしました。



放射能にせよ温暖化にせよ、地球の行く末を左右する人間のエゴに申し訳ない気持ちで一杯になります。
たった百年、されどもは昔には戻れない日々の生活の中で、私たちに出来ることは、命を慈しむ心、
すなわち生への感謝なのではないかと。そこから全てが始まるように思います。
「記憶の継承」とは、等しく尊い 一つ一つの命の継承に他ならない。 そんな思いを込めた作品です。

